

冠着の光

詞:大谷善邦 曲:森 政教

(前奏) G C D7 G

1 年に一度の お祭りが
冠着山の 頂きで いとなまれる
この一年 里に恵みを 与えてくれたことに 感謝
お社 (やしろ) をはき清め しめ縄を張りかえる
お神酒 (みき) をいただくときは 夕闇に
ヒメポタルが 舞い始める
冠着の光り とわにあれ

2 ヒメポタルは 希少種だ
よくぞこの地で 生きのびた
里のてっぺんで 舞い続けて くれたことに 感謝
里人が明るく 楽しいのはそのおかげ
ギターをかついだ 音楽好きが
一緒に歌い 舞い始める
冠着の光り とわにあれ

3 ヒメポタルの メスたちは
羽が退化して 飛べないそうだ
草むらを照らして 地面の在りかを 教えてくれることに 感謝
オスたちはそのおかげで 舞っていられる
神はなぜかくも男と 女を分けるのか
なぞがあるから 舞いたくなる
冠着の光り とわにあれ

